



大川家
50

京都大学
附属図書館
大川
50

天保六年
三月
仙石
傳入



之

子月

仙名

仙名

仙名

神名

左神

右神

仙名



[illegible][illegible]

南表は中津の舟にのりて、舟中より一余歳

のち、ひまをたふし、一夜の舟にありて

知れぬ中津の舟にのりて、舟中より一余歳

のち、ひまをたふし、一夜の舟にありて

知れぬ中津の舟にのりて、舟中より一余歳

のち、ひまをたふし、一夜の舟にありて

知れぬ中津の舟にのりて、舟中より一余歳

のち、ひまをたふし、一夜の舟にありて

知れぬ中津の舟にのりて、舟中より一余歳

のち、ひまをたふし、一夜の舟にありて

知れぬ中津の舟にのりて、舟中より一余歳

のち、ひまをたふし、一夜の舟にありて

ありはるる事なたる様へお智る為
巧み様きとのそへ宿願とい我に値いとの
此に世にさる義となるものほめられ
祝ありと誠とさる是女に深に彩りお慶
後後いーとさるも遠くたる家運巧き
かゝる

名を同部ト依り村ニお物如用極い
以井上いりお掛あははははははははは

未至七月

子丹

死罪

仙石直加

河津之濱

右張善子畫

一、此山係在都邑之南，其地甚廣，其地甚廣，其地甚廣。

此後一南遊
遊歷各處
仙家之術

五捕下と根薪よおふひとふと器成す

力と通ひた上

ふい

松海中華書

呂本深老乃

未見のち社より照恒中整備敷井上りの子殿が
弟ちねいふらに中平殿のまゝといふ

仙名
ふ

仙名たふ

意本立美

仙名まじ

酒のまじ

早川保助

大塩武光

宮中と大

海老蔵

西月己百

大保 春の寺

非人伝

力と通ひた上

之

真田

仙宗

井

酒

井

仙

井

伯

井

伯

井

伯

井

井

井

伯

井

伯

井

井

仙

仙

三

かみ

かみ

かみ

十二月九日

中一海一賞

仙居及一助

能物也石鳥

玉虫十力鳥

石鳥元家鳥 鳥如茶の鳥 上補石鳥事
盧江僧友 鐵智波石鳥有之 石鳥捕獲石鳥
前井伊が鳥 上中 越鳥石捕 石鳥知地

以亦有之。如月。古社。古。行。及。以。味。受。
 今。方。政。政。而。不。西。方。一。不。客。易。東。海。有。客。
 海。一。鈴。律。定。不。遠。即。鈴。汝。衆。游。至。仙。石。
 大。原。後。今。方。政。政。也。而。紀。身。不。不。意。奢。修。
 超。已。第。一。張。之。方。之。北。上。為。多。隱。行。計。志。
 今。人。為。第。一。中。之。方。第。一。方。之。張。律。一。張。
 為。借。吟。味。死。罪。云。介。一。仕。在。中。付。且。又。
 今。野。其。助。也。方。第。一。今。同。意。不。快。不。有。後。

古詩一首

石鈴伯香雪氣動中列名伯香雪中後
大目月初應時河內雪以目月古律耳鳥眼左
石鈴伯香雪

中後之賞

嘉命

松平手紙

嘉命

能辨題書

石鈴伯香雪氣動中列名伯香雪中後
大目月初應時河內雪以目月古律耳鳥眼左
石鈴伯香雪
中後之賞
嘉命
松平手紙
嘉命
能辨題書
石鈴伯香雪氣動中列名伯香雪中後
大目月初應時河內雪以目月古律耳鳥眼左
石鈴伯香雪

其方既計者其計即人之利也一上
則場一入金之總分既極其止有之者其法無不
三事行一內自回金一平其法及一既家
押和十中亦有不月一也周防中亦其見之海
有月有遠其一即一回金一亦其法海軍中亦
其止及一既家一亦其法海軍中亦其
止其法海軍中亦其法海軍中亦其
周防中亦其法海軍中亦其法海軍中亦其

一其法海軍中亦其法海軍中亦其
其法海軍中亦其法海軍中亦其
其法海軍中亦其法海軍中亦其
其法海軍中亦其法海軍中亦其

平其法海軍中亦其法海軍中亦其
松平軍治部
其法海軍中亦其法海軍中亦其
其法海軍中亦其法海軍中亦其

其法海軍中亦其法海軍中亦其
其法海軍中亦其法海軍中亦其

修竹多情
修竹多情
修竹多情

五、門後山一院佃戶
 張易致事——書水遠——廣志松年
 周書占在佃道之助方占新客處土為行
 郭石院

[illegible]

之
傷
深
實
其
心
法

2

石矜嶺山河古宅著華家并列
何月古宅——
何月古宅

中後之風

松年周瑞智

水村渾家

有月夜遊上之月一拂一
生身隱居藝石公
後方在玉照上公
後方

松平大正
名代
後方

有月夜遊上之月一拂一

有月夜遊上之月一拂一
大目月夜遊上之月一拂一
有月夜遊上之月一拂一

阿部能登
中川修理

有月夜遊上之月一拂一
後方

古詩
月
光
列
在
回
家
日
人
中
後
一
傳
在

仙居乃一陽家
仙居乃一陽家
仙居乃一陽家

不粘版如奔馬——一月有門者乃為上級國之里村
松見古鑑手古我古改虛無信古我古古蘭井信古我古
不補南時揚起入古信古一件仙居乃仙居乃仙居
古人乃古我古我古我古——年家乃古我古我古我古

志西書在也
 南井海客也
 新金精標山所
 仙石都て引揚方中後知轉成陰一
 瑞力之生行不有今吟味陸處言中云為
 不易故有揚花入江流竹葉仰吟味中よりん
 去年年隱名播磨古来より病死も織事と
 陽清乃大系謀事一多毒殺る者商に張有し
 事友た桑梓にお留督なる致巧多怪もの事も
 猶然我随いのち世を去りて世を去る

あま傷けを放ちけりも御告書へ是女に孫也
お給ふ所候以年ハ御告書へ是女に孫也

十一

石名同那巾銀管掛金水氣如石物後有石所
井上河內支樹石如吟味中一有以中一事

未
壬
七月

12

7

—

14

|

右家老丸束を人々家老職に勤む外く
ものも年寄の習ふ家老職に勤む外く
相も荒木玄蕃を始多人教役候に放し
式を減高永く候中付悪事候所にお成自
分忤ふ家松平主税及公縁組に多し同人
を續を以去年年中お府に二六子取程書候
以多し此役家老に入右主税及公清老中

松平周防守模範令中有く此を青自分
威勢強く一家中悪謀に存意に九計に由
右悪事巧く有る同善中河野源玄清
中老に相察し一年お中の中立お成
候丸束及承早速少く仕番を沙汰通
し通候中付公由右轉候河野源玄清
惣素在內し文通候中老に相察し又丸束公

之者同人の相告に付、以日遊去、清入年中、
者補責同の示、
轉後、早速、
分、
兄七、
谷川、
人、

又、
伊賀、
換、
お、
行、
揚、
越、

國許に於て毒殺した京自身侍を家督
相続者度悪謀の由に付るに京隨身
一式を怪席に多し——は者をして所加増に
——次第の者をして悪の役候を放式を
付るに多し——順分を多し分用金
亦付悪の横切の始末に立に付井に
河内郡及び山形渡山及び板橋を人にて

仙居一

死罪

仙居之助家集

暗子集古集

河野順三

右順三書後死罪亦如一條右轉分十部以後
元諸部分一有同國限山設古部以渡通角部
錄有角部及出奔部一有角部及出奔部
仙居部分一有部一有部一有部一有部
仙居部及出奔部一有部一有部一有部一有部

同書者我輩後雪隠、乃知、以後、方、下、知
有、仙、石、家、上、以後、方、知、早、進、入、年、為、改
介、為、事、方、中、之、目、不、為、一、同、素、以、致、之、事
死、罪、之、中、有、由

河野源三書

極、馬、也、獄、二、世、所、捨、了

多、も、井、上、登、半、君、也、古、語、也、

如、ノ、了、余、リ、善、

天保、十、年、一、上、月、初、日、有、方、保、が、多、分、一、云、外、

私、事、好、神、名、七、乃、云、天、外、神、名、替、与、中、の、去、年

二、月、廿、六、日、出、奔、仕、所、知、不、通、改、改、所、在、有、

年、所、有、下、通、之、上、身、中、有、知、下、捕、業、有、

同、三、月、十、七、日、町、中、所、有、同、井、所、有、多、分、下、捕、

以、後、之、後、中、達、通、知、南、上、月、廿、日、同、人、有、

下、捕、以、味、有、知、南、上、領、因、一、月、与、分、は

有、も、友、我、占、古、改、改、是、中、有、知、下、捕、知、知、

有、出、下、所、一、取、禁、色、有、他、一、分、有、下、捕

有月出奔後常以有月申中達龜山の
後月松方占川後、有月如月有月都政之夜隙
有月拘り有月松方占川後、有月如月松方は有月
中占山

亡
七月朔日

仙石通之助

未月八日、仙石通之助、有月申中、

仙石通之助、有月申中、有月申中、有月申中、
云、有月申中、有月申中、有月申中、有月申中、
有月申中、有月申中、有月申中、有月申中、
有月申中、有月申中、有月申中、有月申中、

八月八日

松平俊中書

私事...
 新居神奈橋事...
 松月...
 途中...
 以上...

八月八日

松平俊中

賞

松平...
 佐澤...
 相...

一 駿馬
 一 醫者
 一 佐士月分

人
 人
 人

一 佐士

一 是性士郎

一 是性

一 加賀丸 佐六郎

人 人 人 人 人

佐佐木

石通

八月八日

松平佐中守家集
岡本保右衛門

未八月九日古新章行昭授中務大膳松井上河内守新
為古新章行昭授中務大膳松井上河内守新

仙石家
家集

仙石大系

荒木玄蕃

仙石至計

酒匂信三郎

早川保助

大塚義孝

片野甚助

後色誠助

西島友巳白

大澤吉太郎

藤原宗一助 文政元年
藤原信房 書

石の井 宗味 師有るに名を承け 味如 孫
の者なり 宗信 宗中 宗山 宗山

八月九日

古林友
真田政孝

仙石家鑑 介 書

井伊掃部頭

酒井雅重

松平安藤

養母方伯父
松平伊豆守

大島 友房

酒井 掃部

阿部 能登守

中川 修膳

口伯父

口伯父

平峰上銘林
牧野山烟香
年多懷舊書
小筆柔道以書
陳怪方在相監
井上以月書

仙石於之陽

石通陽於之陽

小月書

力海力

五保六生年一十二月九日

仙石通之助家集附信箋中後書

卯一

小尾集

中平誠言藝者本為中平下新不局有之在
 元日家來河野胸善善改之人曰性之方本
 多中平之言之德之德之德之德之德之德
 且將之乃無之不捕下門命之方之方之方
 之方之方之方之方之方之方之方之方之方
 乃虛執播磨之方之方之方之方之方之方
 中平之言之方之方之方之方之方之方
 中平之言之方之方之方之方之方之方

[illegible]

新王が改役人より通達を伺願ふ處に元服す
亦一人の如股を一等強き包爲る利發之上
種多所豫明尤も困り補証金路等を取
都一深き中より中元才を身不才
諸形をいといふ人爲の御中云々の事科
隨入之餘不有御極育殿の中付ん

用人
宇野甚助

今方改役家元奉寄生駒守中印三人
家元仙石大系奉今方改役守中印陽右様
中元印今方大系内陰之上守中印三人
年守一事才守人中元右様藏之上
整齊守中付人守上有一方守奉寄生駒
守中達守上元同家元何様所爲守今方大系
照服守の事極出守事大内陰守一統
用人、今方守中一統守印守中守大系

隨入云終不有身天龍中付見

年寄

岩田靜馬

松平吉三郎

今方古收靜馬十部卷仙居大系一同分
起色一由木同家系元年寄生駒子計即三人
從者播磨書上書い多行上中石以人外一隊本

一據乃能之知大系古本後因入不有七也
和身寄古本も後判之上播磨書も不有
後判之上中三子中即三人據言之上藝居本
中付・和為方中一本一部改め多々大系收
三人不有一由三人同性本播磨書・正
常一真院古播磨書古本・和係中鐵石元同家系
河時胸書係中言海書・造一古知れ本素大系本
不有書友一居録・和終一も同中後形書書

青水彈丸
庚子

今方其故曰家第家乞仙石大系而布之故
 已矣同人所年家第曰諸島士身分超之
 此亦其人隱者播磨者九年家第生福子
 卯之人上書第——據磨者、公禪布島及之
 壽有——所者新中中及大系及龍女

年科二十月八日續三人也教主寺法海人
内通正古何既所為十元罪主中即之
利發之之團入十月七日一願主臨吟味中
月八日主中即之入仕重商等一師大系
中中入教之次之形主無主中即之入
永年一之有一由主廣主主中三不海也
大系中中入教之次之形主無主中即之入
當下主中即之次之形主無主中即之入

年科二十月八日續三人也教主寺法海人

年科二十月八日

仙石小左衛門

年科二十月八日續三人也教主寺法海人
内通正古何既所為十元罪主中即之
利發之之團入十月七日一願主臨吟味中
月八日主中即之入仕重商等一師大系
中中入教之次之形主無主中中即之入
永年一之有一由主廣主主中三不海也
大系中中入教之次之形主無主中即之入
當下主中即之次之形主無主中即之入

有之形れり曰人自陳公も亦中安部より
卯之入律中付れ併慨に於る上亦大系より
如少く由れり人同性本は棲摩る方より系
則同家系より離散し後河形形を係中より
有る人同人此種本城より有るなり是は
一旦系より中より有るなり有る由る
此種より有るなり有るなり有るなり
有るなり有るなり有るなり有るなり

列在等一及此種胸を係は重なり有るなり
有るなり有るなり有るなり有るなり
有るなり有るなり有るなり有るなり
有るなり有るなり有るなり有るなり
有るなり有るなり有るなり有るなり
有るなり有るなり有るなり有るなり
有るなり有るなり有るなり有るなり

岩田丹麥
惠勝又右馬
徳永半右馬
山中耕三郎

今方方收元田家来平難教中付有
河野勝左衛門家仙石大系五人ある一級
多人同姓とも中三を大系收後仰い難教

續々勝左衛門家来平難教中付有
郡方領一の戸方捕押丹麥も五人あり
吟味節有一の戸方領左衛門家收後仰い
おとし此等勝左衛門家来平難教中付有
越えお吟味し政方大系左馬とよび四人ある
系多也~~本姓~~格威い忠をきり所一お吟味
と上大系左馬格威い忠をきり所一お吟味
吟味格威い忠をきり所一お吟味

この大事業を遂げし科志平科中背橋
西洞年寄才仕並内膳方一併に御寄
せし方お着陣し耕後大系仰一不承お着
し上立腹し年寄方より及後達重し御人
し月急お同為お近所中御来し御丹美
耕後今中進致中付又及後事方進し中
進致中付

後 早川保輔

医師 齋藤巳百

今方お成り人 先代 田邊雪齋 御方御事
急事おありお祈り場合し此迄御来例御親
身お海村一帯御地、お今一様御方御親
身御事、今一御地、お今一様御方御親
身御事、今一御地、お今一様御方御親
身御事、今一御地、お今一様御方御親

松尾高直

友信

中徳園今一月名松尾信生

奥廣文書

西村平

三波

金田昌幸

17

増田七郎

石原新吾

年寄

山石大之助

中倉

長岡石伸

元年寄

生駒平次

17

荒木玄蕃

17

酒匂信之助

元奥附高時院君

藤原良房

勘定奉行

久保左九郎

17

沢平鴈助

運書院主名書

青木葉之

岡部角斎

馬

馬川三子

名博生人

名博生人

名博生人

名博生人

名博生人

名博生人

名博生人

17

元子号南时院君

久安帝文院君

元子号

元子号

元子号

元子号

元子号

元子号

元子号

元子号

平升源市

右田东方

内田祐吉

中村祐甫

横田祐吉

村井康助

吉橋久方

和名城下
米所市町
蔵

其より後所皆一節も不承なる所

蔵

一 江戸助部系合田島山所増田七郎
原新五郎仙之方系所一五郎

いふ所一河より一子知悉り味知
大系系一、其より中一子一子一子
形九子一子一子一子一子一子一子
色下一子一子一子一子一子一子一子
多九子一子一子一子一子一子一子
通一子一子一子一子一子一子一子
子一子一子一子一子一子一子一子
大系系一子一子一子一子一子一子一子

おぬえの力い超々新橋寺の正堂の
元為寺より大乗が改められ申す所より及志
幾千の元のもの有りて五洲の上
及び新橋寺の元より中陰の松寺
後より寺より

石鈴寺定永昭昭中勢寺補神鹿寺後寺
柳寺より内家寺人正村寺寺寺寺
寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺

天保二年十一月

松平周防寺
寺代
寺村寺寺寺

寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺
寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺
寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺
寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺

[illegible]

卷之四 地志
 卷之五 地志
 卷之六 地志
 卷之七 地志
 卷之八 地志
 卷之九 地志
 卷之十 地志
 卷之十一 地志
 卷之十二 地志
 卷之十三 地志
 卷之十四 地志
 卷之十五 地志
 卷之十六 地志
 卷之十七 地志
 卷之十八 地志
 卷之十九 地志
 卷之二十 地志
 卷之二十一 地志
 卷之二十二 地志
 卷之二十三 地志
 卷之二十四 地志
 卷之二十五 地志
 卷之二十六 地志
 卷之二十七 地志
 卷之二十八 地志
 卷之二十九 地志
 卷之三十 地志
 卷之三十一 地志
 卷之三十二 地志
 卷之三十三 地志
 卷之三十四 地志
 卷之三十五 地志
 卷之三十六 地志
 卷之三十七 地志
 卷之三十八 地志
 卷之三十九 地志
 卷之四十 地志
 卷之四十一 地志
 卷之四十二 地志
 卷之四十三 地志
 卷之四十四 地志
 卷之四十五 地志
 卷之四十六 地志
 卷之四十七 地志
 卷之四十八 地志
 卷之四十九 地志
 卷之五十 地志
 卷之五十一 地志
 卷之五十二 地志
 卷之五十三 地志
 卷之五十四 地志
 卷之五十五 地志
 卷之五十六 地志
 卷之五十七 地志
 卷之五十八 地志
 卷之五十九 地志
 卷之六十 地志
 卷之六十一 地志
 卷之六十二 地志
 卷之六十三 地志
 卷之六十四 地志
 卷之六十五 地志
 卷之六十六 地志
 卷之六十七 地志
 卷之六十八 地志
 卷之六十九 地志
 卷之七十 地志
 卷之七十一 地志
 卷之七十二 地志
 卷之七十三 地志
 卷之七十四 地志
 卷之七十五 地志
 卷之七十六 地志
 卷之七十七 地志
 卷之七十八 地志
 卷之七十九 地志
 卷之八十 地志
 卷之八十一 地志
 卷之八十二 地志
 卷之八十三 地志
 卷之八十四 地志
 卷之八十五 地志
 卷之八十六 地志
 卷之八十七 地志
 卷之八十八 地志
 卷之八十九 地志
 卷之九十 地志
 卷之九十一 地志
 卷之九十二 地志
 卷之九十三 地志
 卷之九十四 地志
 卷之九十五 地志
 卷之九十六 地志
 卷之九十七 地志
 卷之九十八 地志
 卷之九十九 地志
 卷之一百 地志

十一月

松平 元統
氏代
德興寺 石室

今方海仙名存既元家第生福至中
 卯之人而居之汝方之由志科之崇德
 游之長之且之之獄之有之有之有之
 之人之助勝之有之有之有之有之
 信之有之汝之有之有之有之有之
 家第之有之有之有之有之有之
 周之有之有之有之有之有之
 天鼎之有之有之有之有之有之

壬申卯三ハ利發之上用場ハ金一匁
 及後教止下ハ其ハ仕金古之奉行ハ内
 同金ハ宛ルハ後及ハ助部再押込中ハ金
 月ハハ周防古ハ其金ハ後及ハ後及ハ
 卯ハ同金ハ及後及ハ中ハ及及ハ上ハ及ハ
 忌中ハ及及ハ仕金中ハ及及ハ及及ハ
 及及ハ及及ハ及及ハ及及ハ及及ハ
 及及ハ及及ハ及及ハ及及ハ及及ハ
 及及ハ及及ハ及及ハ及及ハ及及ハ

家自書局有氣其誠之令傳及于助家
已足結仙石大系之同德之令及助家
政用之傳解令之令及助家之令及
傳一隱居之令及助家之令及

十月廿

王統和順
松平軍治部
氏

王忠十進

又王統和順
傳之令及助家之令及
傳之令及助家之令及
傳之令及助家之令及

十月廿

王統和順
松平軍治部
氏

其方汝但刑限山附地涉人後道角事入

本給河内雪光君年寄年列給河内
田月山園家北中あたりに
古蹟

岡井洋行

其方後仙居一助元家系多奇
作名結集一康之僧友我君後不
有捕後之收居一助方中誠有
所

あ一十月乃不補之友我君後不
有一通之助方不補之友我君後
場方不補之助方不補之友我君
取込不補之助方不補之友我君
所目通之助方不補之友我君

右新書不補之助方不補之友我君
中後一

十二月

古冊

仙居第一

仙居戶助家藏

仙石大系

神卷七之三

石七之三

神谷 稿

仙居陳三布附

石稿初發後一月各門寺、市、民、友、錢、香、方、有、改、定、三、後、
市、民、所、幸、引、前、井、海、國、寺、子、云、補、南、時、
揚、屋、入

吾子細

石部大系人、家系、職、勤、事、の、
年、古、唱、身、近、威、お、慕、腹、心、せ、る、の、
君、お、公、著、を、始、多、久、教、漫、漫、に、教、一、式、を、職、
承、一、帳、中、月、通、年、一、横、行、三、行、次、自、初、憐、
前、各、松、年、一、任、及、古、録、胆、第、一、回、人、の、鑑、志、
去年、年中、一、如、府、一、上、今、一、家、一、後、一、神、者、任、第、一、

此後部々入有手紙及書狀中
 松平
 周防守松平金次郎有手紙及書狀中
 一、部中、意疎く、取意、其、由、右、意、事
 二、之、方、上、同、藩、中、河、野、順、之、書、中、の、内、に
 三、有、手、紙、中、に、中、之、意、不、同、後、大、意、及、水
 四、平、書、中、に、江、戶、を、沙、汰、す、と、い、は、れ、中、に、中、之、意、不、同、
 五、右、指、河、野、順、之、書、中、に、二、三、之、意、及、内、に、文、通、意、
 六、中、之、意、不、同、又、右、意、事、中、に、有、同、人、の、書、状、中、に、

[illegible]

其方類古形，有指收橫山所通之節。
石補一、亦如仙居郡。二、後漢：楊公、人
法、市、市、行、和、臨、味、陰、度、方、中、云、者、不、管、易
改、身、揚、凡、入、言、修、身、兩、時、內、外、中、之、知、序、助
天、裁、而、智、識、之、病、死、之、終、末、矣、云、下、部、是
大、系、因、件、之、本、字、毒、醫、之、大、系、自、分、解、之、
亦、智、在、鑄、鍊、交、焉、諸、由、右、身、為、中、大、系
隨身一式式、性、磨、士、海、

壬午年八月十日

神谷粘

一

仙石家多仙名大系考
一、仙家志願書初巻
年表五卷云著上治文ノ教ノの才大系
秘宗ノ不随の中流成百教式ニ職言有
部ノ喉中月自公牌ト家合松平ノ子候
娘之御從弟一石子強リノ去年年相角
ノ柳鶴松志郎漢都ト立テ右候強福トナ
所逢リ有テ大系威勢ニ倍長シト云
神宮精淑勝手流ノ河井勝之藤ト張西

[illegible]

粘牙多處交中月交は片も中を指し
穿鬚有る麻布六部町を本陣置
津市世話中一日は法入の事。重信
お母も教育大系は是を為る者人前井
河野多々形入粘成橋山町千石下柳
仙石家より一段粘成橋中。立給
車行本陣味張交方中。者不台易
河野揚屋入。後月替年。味中。去年年

後居橋廣智在。多病死。事。大系
謀事。毒殺。方南。方。事。大系
。牌。教。致。事。怪。事。増
志。致。事。世。致。事。
事。事。事。事。事。事。
是。事。事。事。事。事。
大系。事。事。事。事。事。

事。事。事。事。事。事。

事有井上河内宮城、古如吟味、

仙家、政事、

天保六未年、正月、初、石、春、古、中、河、内、

如、來、

中、首、石、

酒、句、清、香、

生、方、汝、去、月、十、六、大、屬、錄、

中、合、院、堂、

重、海、石、汝、人、大、月、不、政、事、

公、著、仙、石、汁、平、市、市、重、中、合、院、堂、

中、致、上、書、最、不、令、誤、解、之、後、

中、致、不、角、之、往、思、石、可、坐、地、以、如、

一、有、一、大、多、中、年、科、之、

旧、家、中、致、一、汝、不、誤、之、思、石、

以、仁、惠、中、致、不、誤、之、思、石、

中、致、不、誤、之、思、石、

元、家、中、致、不、誤、之、思、石、

不彈以老古新就同性古古在上層曰松古介
自分考古風統古古文意在古古古古古古古
師聲但古生野地没人海邊角古古古古古古
不古古古古古古古古古古古古古古古古古

云儀臨沙恬正
書成
不爲
忘
物
去年年

三月十七日
許廣平
趙廣平
張廣平
陳廣平

大風標 耕者及終
所求 告終 上卷 一 終 一

晉江張氏

至極心入心院
 都上勝惡兆節
 古新心立正一
 帝
 一云中張字
 今立心新中
 古勝不古
 古勝一
 心

孫、平、沒、仙、居、平、沒、人、氏、名、田、之、律、戶、松、平、家、老、馬、好、人、

自及張氏出居不覺其

年而後不
到極
月也
平
不
光
能
代

大德王公卿士庶人咸仁由是

瓦礫一箇、
利安、
上田、
長生

姜友松

石之類也

石之類也

石之類也

石之類也

石之類也

石之類也

石之類也

石之類也

石之類也

石之類也

石之類也

石之類也

石之類也

石之類也

石之類也

新行古教隱居藝者必修月俸乃爲門下
持持人持持者下小人町明度度門梅如
必修如

玄善牌
黃水信在師

右日新持持者持持人持持者下膳了持持者
月如古一後必修者

玄善牌
仙石安在師

右日新持持者持持人持持者下膳了持持者
月如古一後必修者

原平而高

右日新持持者持持人持持者下膳了持持者
月如古一後必修者

言自磨石

子牙
破野之篇次

隱居之修月憐石磨石人持石第幾年自
夫人持石第幾年自持石第幾年自持石第幾年自
持石第幾年自持石第幾年自持石第幾年自

言不報

古皮維之思

隱居之修月憐石磨石人持石第幾年自
持石第幾年自持石第幾年自持石第幾年自

言不報

余作語之思

隱居之修月憐石磨石人持石第幾年自

言不報

余作語之思

隱居之修月憐石磨石人持石第幾年自

高白唐石

神谷七乃之

磐石公修月牌
三格係云人持石公下修月牌
此牌

言不敏

仙石年一助

磐石公修月牌

一南未壬七月廿一日修月青

私部神谷七乃之天久神谷精方中一の云平
二月廿五日修月牌不届一修月
事行不届一上修月中修月不修月
同二月廿五日修月牌不届一修月
一修月中修月不届一修月
修月不届一修月不届一修月

中改帳是中言改也者之改之方松方之
系出之府之取業之也中他之口合之聲
而府有也其子坐其行而中府中曉之聲
之改松方之門後而府有也其改
而府之口拘之方何年松方之口後也
之改松方之口拘之方何年松方之口後也

未士七月廿日

仙石道之助

一未八月六日服松中醫士補松方有方大一通
所錄書片出

井澤政輝部氏直隆書

井澤政輝部氏

國井政輝部氏直隆書

酒井雅平氏

松平政輝部氏直隆書

松平政輝部氏

松平政輝部氏直隆書

松平政輝部氏

一 表分便方

酒井抄抄書

一 表分伯父

松平抄抄書

一 表分叔父

阿部能登書

一 表分便方

中川修理書

平澤松平抄抄書
此書係松平書名及家譜

平澤大和書

井上松平抄抄書
此書係松平書名及家譜

井上河内書

牧野松平抄抄書
此書係松平書名及家譜

牧野山城書

一 表分叔父

中川松平書

一 右目次

此書係松平書名及家譜
此書係松平書名及家譜

此書係松平書名及家譜

一 未八月九日古社吉汗服任中誓六神松
陸尾下田吉右衛門知太一通陸尾方々々々

下橋式人々々々

宇野長助 右
岩田丹次 右
仙石三右衛門 左

永倉義典

岩田式

仙石大系

岩田式

岩田駿馬

酒白膳長

大塚義典 右

左田吉右衛門

井上義典

木下達中 通

天守万幸

西村一吉 右

細川保助 右

後方吉助 右

西村吉右衛門

久保吉右衛門 右

麻呂吉右衛門 右

吉田式
芥七 右

右の青味篇有「年月早」等
右條より「年月早」等

未
月

一 仙石氏の御領事 月一

二 儀政沙汰御領事 月一

所見は台帳より「五月十九日」等

月一

但所見は「仙石氏」等

今「仙石氏」等

仙石氏

仙石氏

計部
市
通
中
立
自
性
所
人
方
令
張
王

集古中

師月見之
如新會中

八月五日井上河内書於虛無僧所
後書河内書於虛無僧所
八月五日

七日

和名 日本書紀卷之六 庚子年 庚子年 庚子年 庚子年

一
同月同日午時降臨如以該月九日相
府均呈惟部人東海戶通部人中山戶
知者亦有一飛牌官員之七日事年孫鐵額
台十封金七歲以第

府知事 陸軍部 東海 通商 中山 戶

卷之七

中村金太郎

但存心事——看病處——如病之在血氣
磨治也致下——血且病死——等——
候——性靈——如身之月——

磨治飛蚊石下——名且病无碍于

保生堂

張氏玄著

酒白陪客

岩田丹次

陳雲

新理奇書

烟川集

久隆吉之

楚人黃氏之節
 勇義忠智
 乃其
 勤妻尚時
 德在

一所有是者其後福分安否不交

一 月 日 之 後 估 知 矣 如 是 是 生 亦 却 也

但方。如之。一。是。性。女。人。東。海。原。通。方。一。
外。令。川。支。者。一。也。了。九。月。十。二。日。早。一。時。

天。保。六。年。十。月。朔。日。右。所。集。村。民。等。